



生徒の知覚・感受を基に 思考・判断し表現する姿を学習活動から見取る

ポイント① 題材構想の段階で明確なねらいをもつ

新学習指導要領の全面実施に伴い、資質・能力の育成に向けて、知覚・感受を基に思考・判断し表現する一連の過程を大切に授業づくりをしていくことがより一層求められます。解説では、「A表現」「B鑑賞」の各領域の指導について、指導事項を相互に関連付けながら題材を構想することが示されています。そのため、題材構想の段階で「どの指導事項を組み合わせる指導していくか」という点を明確にしていく必要があります。題材を通して生徒にどのような力を身に付けさせたいのか、ゴールをどこに設定するのかを明確にすることで、教材や活動を通して何を学ぶのか、という学習内容を焦点化するとともに、評価の場面を精選することにもつながっていきます。

ポイント② 音楽を形づくっている要素を適切に選択する

新学習指導要領において、〔共通事項〕(1)の事項アは「思考力、判断力、表現力等」、事項イは「知識」に関する資質・能力として示されています。事項アについては、「本題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を教師が適切に選択し、それらを支えとして生徒が知覚・感受することで、思考・判断したり、知識を得たり生かしたりすることができるよう指導していきます。音楽を形づくっている要素については、右に示した具体例の中から、本題材で生徒全員によりどころとさせたいものを焦点化して選択していくようにしましょう。

【音楽を形づくっている要素】

音色、リズム、速度、旋律、
テクスチャ、強弱、形式、構成 など



ポイント③ 資質・能力を育成するために学習活動を工夫する

題材を通して生徒に身に付けさせたい力を育成するためには、学習活動の工夫が必須です。生徒が思いや意図をもって表現したり、よさや美しさを味わって聴いたりすることができるように手立てを講じて、適切な学習評価につなげていきましょう。

【学習活動の工夫の例】

- ・個人、ペア、グループなど学習形態を工夫する。
- ・題材のねらいに沿ったワークシートを活用する。
- ・授業の振り返りでは「活動を通して何を学んだか」という視点でまとめができるようにする。
- ・必ず音や音楽を介して学びを深める。
- ・生徒が実感を伴って学ぶことができるような活動を取り入れる（実践事例参照）。



3学年 鑑賞

「我が国の伝統音楽の特徴を感じ取り、そのよさや魅力を味わおう」

音楽科実践事例


雅楽の特徴に関心をもち、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて理解し、我が国の伝統音楽について自分なりに解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わう。

評価規準

ポイント 2

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。 注意 鑑賞の題材については、技能の評価規準は設定しない。	思 旋律、速度、テクスチャ を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したごとと感受したごととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	態 我が国の伝統音楽の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

指導と評価の計画

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価
第1時	○「越天楽」を視聴する。 ○雅楽に使われる楽器の音色を知覚し、合奏の中での役割について考える。 ○箏の口唱歌を歌い、音色や旋律線の特徴から、雅楽の固有性について理解する。	・題材の導入として、雅楽の固有性に着目できるよう、西洋と日本の絵画や庭園など、視覚的に捉えられる美の違いについて考えさせる。 ・発音原理、既習の西洋楽器との共通性や雅楽の楽器の固有性から、明確に音色や旋律線の特徴をつかめるようにする。 ○口唱歌を歌う様子を観察 ◎観察・ワークシートの記述（知）
第2時	○OCDに合わせて口唱歌を歌う。 ○「君が代」を、オーケストラと雅楽それぞれの伴奏に合わせて歌い、違いやよさを考える。 ○「越天楽」を鑑賞し、雅楽のよさや魅力について自分の感じたことや考えたことをまとめる。	・2種類の「越天楽」の音源を使い、拍をとり歌いながら、2つの違いや雅楽らしい表現について意見を交わし共有することで、拍の伸び縮みやずれについて実感を伴って捉えさせる。 ・オーケストラや雅楽の特徴によって生み出される特質や雰囲気について実感を伴って感受させる。 ○口唱歌を歌う様子を観察  ◎観察・ワークシートの記述（思） ポイント 3 口唱歌を歌えているか、という活動の評価ではなく、体験によってどんな知覚・感受が得られたのかを見取っていく。
第3時	○能・歌舞伎と雅楽の音楽を比較聴取し、共通性や固有性、音楽の多様性について考える。 ○「我が国の伝統音楽の魅力」について、自分の意見をまとめる。	・感じ取った共通性や固有性と、それぞれの伝統音楽の背景となる文化や歴史について関連付けて考えさせる。 ○知覚・感受したことの意見交換を観察 ◎観察・ワークシートの記述（態） チェック 態の評価については、3時間を通して見取っていく。

授業改善のポイント **重要!**

- ① 本題材で学習指導要領のどの指導事項を学ばせるのかについて、明確なねらいをもち、本題材では「B鑑賞」(1)ア(イ)、イ(イ)〔共通事項〕(1)アの指導事項を基に授業を構成した。 ← **ポイント 1**
- ② 鑑賞領域の授業だが、口唱歌を歌うなどの表現活動を通し、実感を伴って特徴を知覚したり、感受したりできるようにした。また、常に比較できる対象を用意し、共通性や固有性を考えることによって、深い理解につなげたり、よさや美しさを味わえたりできるようにした。 ← **ポイント 3**

